会議要録

会議の名称	令和８年度　第１回和光市文化財保護委員会
日　　時	令和８年７月２３日（木）１４：００～１６：００
場　　所	和光市役所　５階　５０３会議室
出　席　者 ※敬称略	【文化財保護委員】委員８名が出席 田中明、田中茂、鈴木敏弘、並木實、岩田昌之、保科裕、 白井和広、浅野里香 【事務局】 ［教育委員会］石川教育長、松戸部長 ［生涯学習課］ 細野課長、杉浦課長補佐兼文化財保護担当統括主査 文化財保護担当　中岡主査、川城主任、大澤主事
傍　聴　者	１名

１　開会

２　教育長あいさつ

３　事務局職員の自己紹介

４　議題（協議・報告）

１　市民参加条例第 12 条第 4 項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

２　配布資料について説明。

（１）令和７年度文化財保護事業報告確定版について

議題（１）令和７年度文化財保護事業報告確定版について資料に基づき説明。

○田中委員長

事務局の報告について、質問やご意見などはあるか。

○委員一同

特になし

○田中委員長

意見等無ければ、次の議題に進む。

（２）令和８年度の主な予定事業追加版について

議題（２）令和８年度の主な予定事業追加版について資料に基づき説明。

○田中委員長

事務局の報告について、質問やご意見などはあるか。

○並木委員

寺宝調査について、その発端を知りたい。

○事務局

市内寺社調査について、昭和に行われた仏像の基礎調査が最後となっていた中で、今回東明禅寺の大絵馬を見せていただくお話をいただき実施に至った。今回をきっかけに広く調査を進めていく予定である。

○岩田委員

午王山遺跡のボーリング調査について、どれほど掘るかなど詳細を教えていただきたい。

○事務局

今回のボーリング調査実施は、南側斜面の保護対策検討を目的としている。山の上に１本 20m、山の下に１本 10mと、2 本掘る予定である。調査地点は、午王山遺跡保存整備検討委員会に諮って決めている。

地盤の特性などを把握した上で史跡の保護対策を模索していく。

○鈴木副委員長

ボーリング調査の目的とは何か。

○事務局

地盤の強度（N値（標準貫入試験値）等）を確認することをまず目的としている。土のサンプリングも採取し地盤の特性も把握し、そこから地滑りのリスクがどれくらいあるのか計算上出して保護対策に活かす予定である。

○岩田委員

広報７月号の表紙・特集が文化財についてであったが、まわりの反応はいかがであったか。

○事務局

好評をいただいており、文化財を PR できたと思う。

表紙というのは中々ない貴重な機会だと思うので広報担当にも感謝している。

○田中委員長

他に意見等なければ、次の議題に進む。

（３）国指定史跡午王山遺跡　点検評価について

議題（３）国指定史跡午王山遺跡　点検評価」について資料に基づき説明。

○田中委員長

事務局の報告について、質問やご意見などはあるか。

○鈴木副委員長

公有地化の進捗を報告いただいたが、今後の予定を教えていただきたい。

○事務局

土地所有者や住民の方々の都合によるものであるため、具体的に順序立てた明確な予定はないが、土地所有者や住民の方々の、土地売買や引っ越しの意向を受け次第、適切に対応する所存である。

○岩田委員

保存という観点で、他の自治体では収蔵庫の空きがないという話をよく聞くが、和光市の文化財保護のためのスペースの現状を知りたい。

○事務局

当市においても、空きが全くないとは言わないが潤沢にスペースが余っているとも言えない。今後空きが無くなる時に備えて検討していくべき点と考えている。

○岩田委員

空きが無くなってからでは遅いため、前もって新たな収蔵庫を用意する、未来のガイダンス施設の中に専用の収蔵スペースをつくるなど、多少大きい計画をもって取り組まないと、貴重な文化財を保存することがさらに難しくなっていくと考える。

○事務局

ガイダンス施設については保存活用計画にも記しており、令和９年度から整備基本計画の策定予定であり、そこで具体的に進められるかと思われる。

○鈴木副委員長

整備基本計画について、他の自治体の事例をみると、計画どおりに収蔵庫の管理等を実施できていないことも少なくない。新しく計画を作る段階で、いかに実現可能な内容にできるかが肝心であり、そうできるか心配な点でもある。ぜひとも現実に文化財を守れるような計画を作成いただきたい。

○田中委員長

保存し続けることを考えると、新しく収蔵のための建物を作るなら、ある程度大きいものでないと意味がない。10 年 20 年ではなく、さらに先の未来への長期的な保存を視野に考えていただきたい。

○鈴木副委員長

保存と言えば、何十年もの前に埼玉県の埋蔵文化財調査事業団によって発掘された出土品については市に戻ってきているのか。

○事務局

外環自動車道を通す際の調査は主に埼玉県の埋蔵文化財調査事業団が行っていたが、その時の資料については事業団で保管している。当担当前任者によれば、適切な資料館のような施設が和光市にできれば、青銅製品など取り扱いの難しい資料についても市に譲渡することが可能というような話をされているようである。

○保科委員

活用について、子どもたちを午王山遺跡現地に連れていき授業を実施する

ことはとても重要なことだと感じるが、何か今後の計画はあるか。
社会科教員に対して生涯学習（社会教育）・文化財担当と学校連携について講義の報告があるが、学校側の意見などあれば教えていただきたい。

〇事務局
社会科教員向けの講座については、学校教育と文化財保護担当がこれまであまり結びついてこなかった部分があるが、今後資料や体験型の学習を一緒に実施していきたいというような意見をいただいている。
子どもたちを現地に連れていくことについては、保存活用計画にも掲げていることだが、現状、遺跡の山の上が整備できておらず行っても説明が難しいという課題がある。そのため積極的に授業に組み込む等はできないが、おとどけ講座にも項目としてはあるため、要望があれば午王山遺跡のフィールドワークの対応は可能である。

〇鈴木副委員長
学校の中でも、歴史サークルなどであれば人数も限定され特に興味のある子どもたちであるから今の整備状況でも問題ないが、学年全体のような規模になると、現状では現地学習は難しいかと思われる。小学生が樹林公園を利用する姿をよく見るが、学術的に午王山遺跡は国の史跡であるのだから、将来的には樹林公園に匹敵するような、子どもたちの場所になることを目指して整備する必要がある。子どもたちに限らず、高齢者の歩くグループなどにも訪れていただくのもよいかと思う。

〇保科委員
ガイダンス施設について、現状、具体的な案はあるのか。

〇事務局
具体的な機能・内容については、確保できる用地や整備の方針に関わってくるため現時点で提示できるような固まったものはない。整備基本計画の策定後に具体化していく予定である。

〇鈴木副委員長
遺跡の案内看板の設置位置について、日の当たり方で傷み方が大きく

変わってくる。長く使うためにも設置場所にはご配慮いただきたい。

○保科委員

様々な機関との連携ということで、日本大学の学生のワークショップはどのようなきっかけで協力する流れがあったのか。

○事務局

以前、保存活用計画を作成した時に委員でいらっしゃった日本大学非常勤講師の宮原俊介先生から持ち込んでいただいた企画である。授業などで午王山遺跡を取り上げていただくことがあるようで、今回は学生主体であり、和光市とのパートナーシップ協定を組んである大学ではないが、事実確認等の観点から生涯学習課にもご協力いただきたいとのお声がけをいただいた。

○保科委員

パートナーシップ協定を組んでいる大学はどこか。

私は下仁田自然学校にてジオパークのお手伝いをしているが、群馬大学と関わることもある。学生からイベントの案など面白い発想のものが出てくるので、午王山遺跡の史跡公園を作っていく段階などで、大学生と連携するのはプラスアルファになると感じる。

○事務局

相互協定、官学連携を取っているのは、十文字学園女子大学、跡見学園女子大学、淑徳大学、目白大学、福島大学、東邦音楽大学などが挙げられる。

大学生との連携については、今回の企画でも柔軟な発想で、考古学専攻でない学生だからこその提案をいただいた。とても有意義な企画であったため、今後何かの形で連携を検討したい。

（4）講義「午王山のおい立ち」　講師：保科　裕委員

保科委員より、昨年度 3 月に発行した「和光市埋蔵文化財調査報告書　第 73 集　市内遺跡発掘調査報告書 29」に執筆いただいた内容（地質学からみた午王山について）を解説。

５　その他

・ヒロハアマナについて
・新倉ふるさと民家園開園 20 周年記念講演会
・令和 8 年度　文化財保護委員会　年間スケジュールについて

〇委員長

他に協議がない場合は、これで協議課題として挙げられた事項の審議は終了とし、事務局に進行をお返しする。

〇事務局

今後のスケジュールに関して、次回の会議１１月以降の開催予定となる。日程が決まり次第お知らせする。

６　閉会

以上。